一部抜粋版

# ANNUAL REPORT

認定NPO法人 アクセプト・インターナショナル

## 2025年度年次報告書




誰しもが平和の担い手となり、
共に憎しみの連鎖をほどいていく

Breaking the chains of violence in the world together

2025



# SOMALIA




## 熾烈な紛争が続くソマリアから テロのない世界を創る

**若者がアル・シャバーブから離脱し社会復帰を支援するとともに、地域との和解を醸成することで紛争解決に向けた好循環を創ることを目指す**

## ソマリアで何が起きているのか BACKGROUND

1980年代後半に始まった内戦により難民・国内避難民が増え続け、度重なる飢饉も発生しています。長引く紛争の背景にあるのは、武装組織アル・シャバーブによる領土の支配や激しい攻撃です。彼らは政府や国際社会との対話を拒否するため、和平合意の締結という従来の紛争解決の手法が通じません。

そうしたなかで厳しい環境に置かれた若者たちは、終わらない紛争に対しての絶望はもちろん、生きるために仕方なく、あるいは脅迫・誘拐・洗脳などによってアル・シャバーブに加入していく現実があります。また、社会が受け入れてくれないことへの不安やアル・シャバーブによる報復の恐れから、一度加入した後に抜け出すことができないといった問題も深刻です。



## APPROACH 私たちの主なアプローチ

テロ・紛争解決に向けた好循環を創ることを目指して、若者たちが武装組織アル・シャバーブを離脱し平和の担い手として社会に復帰していく支援に加え、地域社会との和解を実現するための取り組みを主に行なっています。



### ❶武装組織からの投降促進

軍や諜報機関などと連携し、ラジオ放送やリーフレットなどを通じて投降に関する情報を拡散するとともに、ホットラインでの電話相談を受け付けることで直接的にアル・シャバーブからの離脱・投降を支えています。



### ❷リハビリテーション・社会復帰支援

首都モガディシュの中央刑務所や紛争の最前線である中部ガルムドゥグ州で私たちが運営する投降兵リハビリ施設において、読み書きや算数などの基礎教育、裁縫や大工などの職業訓練、ケアカウンセリングや宗教再教育などを通じて、彼らがユニークな平和の担い手として社会に復帰していくことを目指しています。



### ❸社会との和解醸成

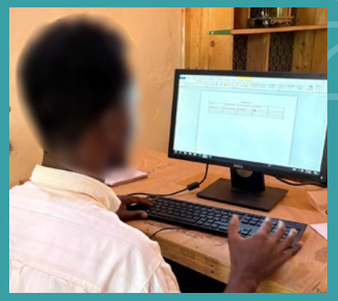
紛争の被害を受けた地域コミュニティに対する食料・水・衛生などの緊急人道支援を、かつてアル・シャバーブに関わった若者たちと共に行なっています。また、地域との和解に向けた対話セッションを各地で実施しています。



## 受益者のストーリー STORY

### 自爆テロ要員だった私の転機

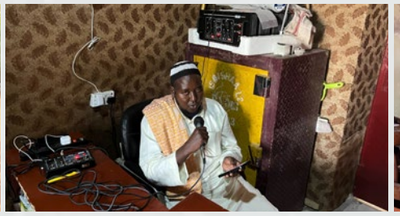
**武装組織アル・シャバーブ**
**元メンバー**
**アデン（仮名）　25歳**



私が育った貧しい町は長年アル・シャバーブの支配下にあり、地域の有力者から「アル・シャバーブに入ればお金を稼ぐことができる」と言われ、組織に加わりました。しかし、私が配属されたのは自爆テロ部隊でした。自分の人生はもう終わったのだと深い絶望を感じましたが、「生きたい」という思いを捨てることはできませんでした。私は命がけで組織を抜け出し、約7時間かけて歩き続けて政府に投降。アクセプトが運営するリハビリ施設での生活が始まりました。

施設では同じ投降兵の若者たちと生活を共にしたりする中で、少しずつ心を落ち着かせることができました。私は計算が得意だったこともあり、もう一度家族のもとへ戻って小さなビジネスを始めたいと考えるようになりました。そのための事業計画を作成し、アクセプトのスタッフにも積極的にアドバイスを求めたことをよく覚えています。

施設を卒業した時、私の故郷は幸運にもアル・シャバーブの支配から解放されていました。今は家族と再び暮らすことができています。夢を実現するための第一歩として、販売用の車両を運ぶ仕事を頑張っています。リハビリ施設での生活は、一度は諦めてしまった自分の人生を見つめ直す時間でした。アクセプトとの出会いがなければ、今の私はなかったでしょう。これからも家族や自分を大切に生きていきたいと思います。


左）アース製薬株式会社との協働による口腔衛生教育、中央）安全対策の強化に伴い、スピーカーを用いて刑務所の居房へ届けている宗教教育、右）刑務所で働く元戦闘員の現地職員ヌル

## OUTPUT 数字で見る成果

**624名**（前年から+99名）
**アル・シャバーブからの投降を促進**
（2021年からの継続）

**882名**（前年から+28名）
**アル・シャバーブの投降兵・逮捕者への社会復帰支援**
（2019年から継続）

**約24,000名**
**投降・社会復帰プログラムに関するアウトリーチ**

## STAFF INTERVIEW 担当者の声

### 難しい紛争下だからこそ、平和を共に形作る力強い若者を増やしていく

**海外事業局 副局長**
**高橋 みづき**



2025年度は、様々な困難の中でも支援を継続・再開・そして拡大することができた1年でした。まずは、2024年に武装蜂起により支援停止を余儀なくされていた首都モガディシュの中央刑務所にて、650名以上のアル・シャバーブからの受刑者の若者たちに対してリハビリテーション支援を再開しました。安全対策を強化しつつ、スピーカーを駆使して各居房に宗教セミナーを実施したり、居房の中で受刑者同士で学び合う体制をつくるなど、どうにか若者たちに意味のある支援を届けるべく工夫を重ねました。

また、2025年春以降紛争が激化した中部ソマリアのヒルシャベレ州では、若者が自発的に武器を置くことを促すリーフレットの配布活動などを新たに実施し、彼らが武器を置いて社会へ戻る一歩を後押ししました。

さらに当法人が運営する投降兵リハビリ施設では、支援の質を高めることに力を入れてきました。例えば、アース製薬様とも連携した衛生や健康維持に関するトレーニング、卒業後の経済的な自立を見据えた貯蓄方法や小規模なビジネス計画を考えるプログラム、対面・オンラインでのカウンセリングとそれによる若者たちの卒業後の計画の具体化を促す支援を強化しました。加えて、施設で生活しながら地域の若者たちとスポーツを通じて交流を図ったり、投降兵の若者が施設で学んだことを地域の人々に共有・還元する機会も創ってきました。

こうした中で若者たちは、それぞれの場で力強く歩みを進めています。組織に残る若者たちに投降を呼びかける者、施設から卒業して家族と再会し少しずつ自ら生計を立てる者、軍や警察としてソマリアの平和に力を尽くそうとする者などその姿は様々です。引き続き紛争が続く中でも、若者が平和の担い手となっていく前例を、他ならぬ彼らと共に切り拓いていきます。



# YEMEN

# すべての若者が武器ではなく希望を持てるように




**捕虜として収容された若者への包括的な社会復帰支援や彼らの解放に向けた交渉・対話を通じて、紛争の終結に向けた機運をつくることを目指す**

## イエメンで何が起きているのか BACKGROUND

10年以上にわたる激しい紛争により、イエメンは甚大な被害を被っています。紛争下において首都を事実上支配する武装組織アンサール・アッラー（いわゆるフーシ派）はもちろん、複数の勢力が国内で乱立し、紛争の解決を難しくしています。2025年時点では480万人以上が国内避難民となり、人口の約半数に相当する1,950万人もの人々が人道支援を必要とする「世界最悪の人道危機」と呼ばれるような状況が続いています。

その中で、若者たちが強制的に武装組織に加入させられたり、家族の経済的負担を軽減するためにやむなく参加するケースが後を断ちません。仮に武装組織を離れても、分断した社会の中で適切な社会復帰を実現することは容易ではありません。また、戦闘の中で捕虜になった若者たちが無期限で収容され続け、さらなる憎悪が広がることも大きな問題になっています。



## APPROACH 私たちの主なアプローチ

紛争の終結に向けた機運をつくることを目指して、いわゆるフーシ派の元戦闘員で捕虜として収容されている若者の釈放に向けた交渉や社会復帰支援に加え、長引く紛争の中で被害を受けている地域社会への支援を主に行なっています。



### ❶捕虜の釈放に向けた交渉

イエメン暫定政府とフーシ派の捕虜交換に関する交渉現場に参画し、無期限で収容される全ての捕虜の釈放とそれぞれが望む社会復帰を実現すべく働きかけを行なっています。



### ❷リハビリテーション・社会復帰支援

紛争の前線がある南西部タイズ県および中部マアリブ県の戦争捕虜特別収容所において、読み書きを中心とした基礎教育、ケアカウンセリング、裁縫や電気工事などの職業訓練、宗教再教育など、彼らが社会に復帰するための準備を行なっています。



### ❸犠牲者・被害者への支援

国内避難民や、フーシ派の支配領域で不当に拘束され心身に障害・傷を負った人々などに向けて、食料支援や現金給付、心身のケアや職業訓練などを提供しています。また、食料支援などにはフーシ派から離脱した元戦闘員の若者も参加できる場を積極的につくり、和解に繋げています。



## 受益者のストーリー STORY

### もう二度と、誰かに利用されたくはありません

**武装組織アンサール・アッラー（いわゆるフーシ派）元メンバー**
**サリム（仮名） 24歳**



約２年前、私はフーシ派の戦闘員として活動する中でイエメン政府軍に拘束され、捕虜として収容所に運ばれました。拘束される前の私は、フーシ派による誤った思想に惑わされた多くの若者のうちの一人でした。知識不足に加え、貧困や生活苦、そして自分や家族を養うための十分な収入を得られるスキルを持っていなかったことが原因でした。

収容所に移送されてからは、アクセプトによるソーラーパネルの設置に関する職業訓練と英語学習のプログラムを受けました。また、同じくアクセプトが収容所内に設置してくれた本棚を通じて本を読むことの楽しさを知り、読み続けるうちに読書が私の日課となりました。現在は裁縫の職業訓練にも参加させてもらい、新しい知識を学ぶことの幸せを感じています。

私はもはや、以前のような人間ではありません。希望に満ち、働くことの尊さと平和を信じる全く新しい人間になれました。釈放を迎えた暁には、最善を尽くして小さな裁縫工房を開くつもりです。もう二度と、誰かに利用されたくはありません。そしてこの経験を多くの人々と共有し、若者たちの模範となりたいと思っています。








左）捕虜収容所に設置したアクセプト・アンバサダーからの応援メッセージボード、中央）栄養改善と自給率向上に向けて捕虜収容所に設置した畑、右）捕虜の若者が描いた鶴とアクセプトのロゴ

## OUTPUT 数字で見る成果

**850名**
（うち20名の解放が実現）
**フーシ派の捕虜の若者への社会復帰支援**
（2023年から継続）

**2,799名**
**紛争によって心身に障害を負った方々や国内避難民などへの現金給付・職業訓練・医療支援**

## STAFF INTERVIEW 担当者の声

### 捕虜の解放に向けた動きも進展した１年



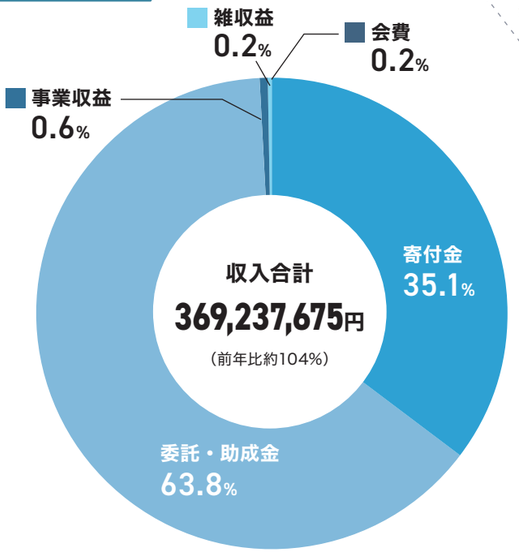
**イエメン事業担当職員**
**丸田 陽加里**

いつも温かなご支援をいただき、誠にありがとうございます。2025年度を通じて、紛争の前線にあるタイズ県とマアリブ県において、フーシ派の戦争捕虜の若者たちへのリハビリテーション支援を拡充することができました。裁縫やバイク修理などの職業訓練や基本的なアラビア語の読み書き、英語を学ぶ基礎教育を中心に、社会復帰に向けたプログラムを継続的に行ってきました。また、地域コミュニティへの支援の一環として、フーシ派に拘束され拷問などを受けた被害者の方とその家族への自立に向けた支援も新たに実施することができました。

私たちが支援する戦争捕虜の若者たちは、釈放までの収容期限が決まっておらず、先の見えない中で日々リハビリテーションプログラムに励んでいます。彼らが実際に社会に戻るには「捕虜交換」というイエメン政府とフーシ派の間での公式な合意が欠かせません。私たちは捕虜交換の交渉を行うイエメン政府側の担当官や収容所を管轄する軍の担当者とも密に連携し、こうした合意を通じて私たちの支援を受けた若者たちが一人でも多く社会に戻っていくことができるような働きかけを同時に行なっています。2026年5月には1,600名の捕虜交換の合意がなされるなど、その成果も現れてきています。

国内外の情勢も不安定であり、軍や政府を始めとする様々なステークホルダーを巻き込んで進める必要のある活動は一筋縄ではいかないことも多々ありますが、捕虜交換をさらに進展させることで、若者たちが前向きな未来、そしてイエメンにおける平和の実現への希望を持って再び社会に戻っていくことができるよう、引き続き支援していきます。また、地域住民との和解促進や定期的なフォローアップといった社会に戻った後のサポートも含め、頼れる現地スタッフと共に、これからもアクセプトだからこそできる、このユニークな活動に真摯に向き合っていきます。

## 会計報告




### 2025年度の総収入は約3.7億円

昨年度から約1,500万円増加し、前年比およそ104%となりました。昨年に比べると緩やかな増加になっています。

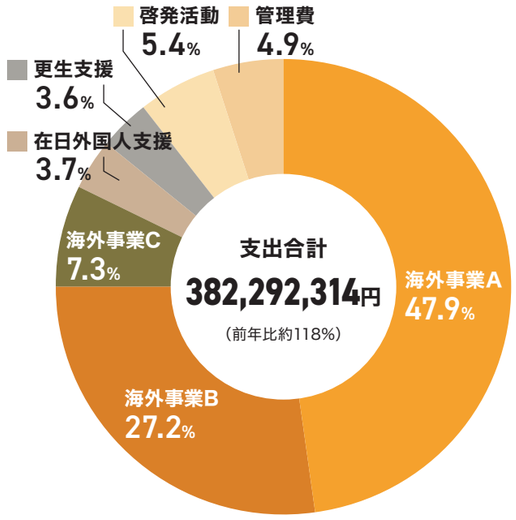
主に増加したのは委託・助成金で、昨年との主な違いはケニアにおける英国政府からの委託事業を通じた外貨収入の増加と、佐賀県で新たに募集を開始したふるさと納税の増加です。

ふるさと納税は佐賀県への寄付であり、集まった寄付金が佐賀県から当団体に交付される仕組みです。そのため当団体における会計科目としては「助成金」の扱いになります。2025年度は当団体の「寄付金」の金額は前年に比べて約500万円ほど減少しましたが、ふるさと納税でお寄せいただいた分を含めて考えると前年からプラスになっています。

委託・助成金と寄付金の大きな違いは、使途の制約があるかどうかです。前者は主に紛争の被害を受けた地域への緊急人道支援や、ケニア、コロンビア、インドネシアなどでの取り組み、また日本国内での取り組みにおいて活用することができています。一方で、ソマリアやイエメンなどの紛争地における若者戦闘員の離脱支援・社会復帰支援や、パレスチナの若手リーダーによる新たな和平プロセスに向けた対話会合、また国際規範の制定に向けた取り組みは助成金の対象になりづらいため、こうした領域において皆様からの寄付金を主に活用しています。

助成金に比べると寄付金の拡大には時間とコストが大きくかかりますが、非政府組織（NGO）としての独立性を確保し「アクセプトだからこそできること」を追求していくために、引き続き助成金をうまく活用しつつも寄付金のさらなる増加に向けて必要な取り組みを進めてまいります。皆様のご理解とご協力を賜われますと幸いです。

海外事業A　紛争の当事者が憎しみの連鎖を離脱して平和の担い手になることを支える取り組み
海外事業B　紛争の被害を受けた地域への緊急人道支援や和解・和平に向けた取り組み
海外事業C　紛争の当事者とともに行う国際規範制定に向けた取り組み




### 2025年度の総支出は約3.8億円

昨年度から約5,800万円増加し、前年比およそ118%となりました。単年で見ると約1,300万円の赤字となります。

海外事業に全体の8割以上、国内事業に1割弱を支出し、広報・ファンドレイジングを含む啓発活動と管理費で合わせて約1割を支出しました。この全体的な傾向は昨年度と同様です。

主な違いは海外事業Aの割合がやや減少し、海外事業Bの割合が増加したことです。海外事業Bは主にご寄付を活用したパレスチナにおける和解・和平に向けた取り組みや、主に助成金を活用した紛争の被害者や国内避難民などへの緊急人道支援が多くを占めており、それらの取り組みが相対的に増えたことが要因となっています。※海外事業A~Cについては、p.4に記載のアプローチ図に沿って区分しています。

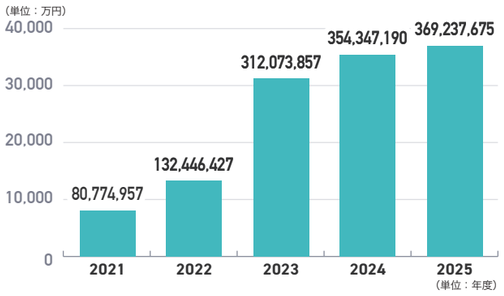
また、経理・会計業務の効率化に向けたシステムの導入など認定NPO法人になるための事務局体制の強化にも継続して取り組み、結果として年度末には認定を取得することができました。

今年度も認定NPO化に伴う管理コストの増加は予想されますが、引き続き現場の事業活動はもちろん、皆様からの信頼にお応えできる組織づくりに向けて必要な支出管理と適切な投資を行ってまいります。

## 経常収入推移　5年間の収入推移

物価高騰や国内外での分断の広がりの中でも皆様から温かなご賛同をお寄せいただいていることに、改めて心より御礼申し上げます。一方で、ここ数年での収入の伸び率は緩やかになってきています。成長そのものが目的ではありませんが、「憎しみの連鎖をほどく」というパーパスを実現する上では、まだまだ規模は拡大させていくフェーズと捉えています。

2026年3月末には認定NPO法人となりご寄付が税制優遇の対象となったこと、また2026年6月からは税制メリットの大きい企業版ふるさと納税を通じたご寄付の受付も開始することができました。今年度はそうした制度も活用しながら、まずは4億円規模の収入を目指します。






## 財務会計報告

### 活動計算書

（単位：円）

| 科目 | 金額 | 小計・合計 |
|---|---|---|
| 【A】経常収益 | | |
| 受取会費 | | 822,746 |
| 受取寄附金 | | 129,663,053 |
| 受取寄附金 | 102,995,222 | |
| ボランティア受入評価益 | 26,667,831 | |
| 受取助成金等 | | 231,143,489 |
| 事業収益 | | 6,929,612 |
| 受託事業収益 | 4,532,302 | |
| イベント登壇 | 2,397,310 | |
| 受取利息/雑収益 | | 678,775 |
| 経常収益計 | | 369,237,675 |
| 【B】経常費用 | | |
| 事業費 | | 98,292,707 |
| （1）人件費 | | |
| 役員報酬/給料手当/法定福利費 | 71,418,616 | |
| ボランティア評価費 | 25,627,885 | |
| 通勤費 | 1,166,000 | |
| 福利厚生費 | 80,206 | |
| （2）その他経費 | | 265,274,160 |
| 業務委託費 | 11,887,120 | |
| 諸謝金 | 13,860,006 | |
| 印刷製本費 | 6,335,923 | |
| 会議費 | 20,099,775 | |
| 旅費交通費 | 37,443,146 | |
| 通信運搬費 | 1,757,950 | |
| 消耗品費 | 64,187,950 | |
| 建築・修繕費 | 33,699,931 | |
| 保護費 | 29,565,946 | |
| 広報費 | 1,864,931 | |
| 備品費 | 10,630,242 | |
| 渉外費 | 117,167 | |
| 新聞図書費 | 614,089 | |
| 支払助成金 | 1,032,167 | |
| 地代家賃/水道光熱費 | 11,079,436 | |
| 賃借料 | 3,170,835 | |
| 保険料 | 407,632 | |
| 租税公課 | 10,830,726 | |
| 諸会費 | 128,432 | |
| 研修費 | 21,072 | |
| 支払手数料 | 3,694,070 | |
| 為替差損 | 2,543,619 | |
| 雑費 | 301,995 | |
| 事業費計 | | 363,566,867 |
| 管理費 | | |
| （1）人件費 | | 6,306,505 |
| 役員報酬/給料手当/法定福利費 | 5,140,579 | |
| ボランティア評価費 | 1,039,946 | |
| 通勤費 | 124,000 | |
| 福利厚生費 | 1,980 | |
| （2）その他経費 | | 12,418,945 |
| 業務委託費 | 4,584,438 | |
| 印刷製本費 | 120,663 | |
| 旅費交通費 | 2,346 | |
| 通信運搬費 | 335,726 | |
| 消耗品費 | 250,761 | |
| 地代家賃/水道光熱費 | 3,312,797 | |
| 減価償却費 | 236,446 | |
| 保険料 | 11,200 | |
| 諸会費 | 165,600 | |
| 租税公課 | 9,500 | |
| 支払手数料 | 3,340,970 | |
| 雑費 | 48,498 | |
| 管理費計 | | 18,725,450 |
| 経常費用計 | | 382,292,317 |
| 当期経常増減額【A】−【B】・・・① | | -13,054,642 |
| 【C】経常外収益 | | 0 |
| 【D】経常外費用 | | |
| 雑損失 | 72,580 | |
| 経常外費用計 | | 72,580 |
| 当期経常外増減額【C】−【D】・・・② | | -72,580 |
| 税引前当期正味財産増減額①＋②・・・③ | | -13,127,222 |
| 法人税、住民税及び事業税　・・・④ | | 0 |
| 前期繰越正味財産額　・・・⑤ | | 77,744,860 |
| 次期繰越正味財産額③−④＋⑤ | | 64,617,638 |

1 **受取寄付金…**昨年に比べると数字上は減少していますが、その理由はp.32の収入グラフの箇所でご説明しています。

2 **ボランティア受入評価益…**無給で活動に参加している学生や社会人のメンバーの貢献時間を金額で換算する方法を用いて可視化しています。なお、支出部門においても同額が計上されています。

3 **受取助成金…**昨年度比で約114%と増加しています。詳細はp.32の収入グラフのご説明をご覧ください。

4 **業務委託費…**ケニア、イエメン、コロンビアなどにおける助成事業に係る会計監査や弁護士費用など助成金で賄えているものに加え、パレスチナ和平に向けた対話会合における通訳費用などです。

5 **諸謝金…**各事業における職業訓練や宗教再教育を担う外部講師に加え、紛争の被害を受けた地域に派遣する医者や看護師などへの謝金が多くを占めています。

6 **会議費…**ケニア・インドネシア・コロンビアなどでの助成事業として実施した政府機関職員などに対する能力強化研修や地域との和解に向けたセッションのための会場費が多くを占めます。また、パレスチナ和平に向けた日本での対話会合における同時通訳の費用も一部含まれます。

7 **旅費交通費…**国内外でのスタッフの渡航費やパレスチナ若手リーダーの対話会合に係る参加者の移動費が多くを占めます。また、紛争地における防弾車や護衛などの安全管理費も含まれます。オンライン会議が浸透した中でも、対面だからこそ生み出せる関係構築とそれをもとにした対話や交渉を行っていきます。

8 **消耗品費…**ソマリアの投降兵リハビリ施設で提供する食事や、助成金を用いた国内外での食料支援が多くを占めます。また、ご寄付をもとにガザ地区で提供した防寒具や衛生用品、各種プログラムで使う文房具、起業のためのスターターキットの費用も含まれます。

9 **建築・修繕費…**主に日本国外務省からの助成事業において、コロンビア・インドネシア・ケニアでのカウンセリングルームや多目的職業訓練センターなどの建築を行いました。

10 **保護費…**ソマリアでの社会復帰支援において就業などに必要な物品の購入費や、イエメンの紛争被害者の方が抱える多様なニーズに対応するための現金給付（助成金を活用）などの費用です。

11 **備品費…**ソマリアやイエメンなどでの職業訓練にかかる費用（ミシン、木工用品、ソーラーパネル設置の備品等）が多くを占めます。

12 **当期経常増減額…**単年で赤字となりました。収入は大きく伸びなかったものの、重要な取り組みを実施する上で必要な支出はしっかりと行った結果です。2026年度も支出すべきところを見極め、インパクトの最大化に繋げてまいります。

13 **次期繰越正味財産額…**特に難しい紛争の解決や前例のない新たなアプローチの創出に取り組んでいるからこそ、基本的に不測の事態を想定して経営をしています。また、人に直接関わり続ける取り組みだからこそ、無収入寿命（収入がゼロとなっても不可欠な活動ができる期間）を数ヶ月ほど常に用意できるように意識しています。一方で、2025年度はパレスチナ和平に向けた若手リーダーの日本招聘事業をはじめとして自主財源を多く使う取り組みがあったことから、繰越金は昨年よりも約1,300万円ほど減少しています。

### 貸借対照表

（単位：円）

| 科目 | 金額 | 小計・合計 |
|---|---|---|
| 【A】資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金預金 | 222,184,186 | |
| 未収金 | 23,856,720 | |
| 貯蔵品 | 4,315 | |
| 前払金 | 682,200 | |
| 前払費用 | 81,510 | |
| 仮払金 | 7,483,000 | |
| 流動資産合計　・・・① | | 254,291,931 |
| 固定資産 | | |
| （1）有形固定資産 | | 298,675 |
| 附属設備 | 178,001 | |
| 什器備品 | 120,674 | |
| （2）無形固定資産 | | 0 |
| （3）投資その他の資産 | | 1,779,097 |
| 差入保証金 | 71,960 | |
| 敷金 | 1,082,227 | |
| 長期前払費用 | 624,910 | |
| 固定資産合計　・・・② | | 2,077,772 |
| 【A】資産合計①＋② | | 256,369,703 |
| 【B−1】負債の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 前受金 | 221,384 | |
| 前受助成金 | 147,517,403 | |
| 預り金 | 1,604,052 | |
| 流動資産合計　・・・③ | | 191,752,065 |
| 固定資産 | | |
| 固定資産合計　・・・④ | | 0 |
| 【B−1】負債合計③＋④ | | 191,752,065 |
| 【B−2】正味財産の部 | | |
| 前期繰越正味財産額 | | 77,744,860 |
| 当期正味財産増減額 | | -13,127,222 |
| 【B−2】正味財産合計 | | 64,617,638 |
| 【B】負債及び正味財産合計【B−1】＋【B−2】 | | 256,369,703 |

監事監査報告書（一部抜粋）
特定非営利活動法人アクセプト・インターナショナル
代表理事　永井陽右　殿

特定非営利活動促進法第18条の規定に基づき、2025年4月1日から2026年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。

一 事業報告は法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

三 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

2026年6月19日　監事　小川隆弘　島野珠緒

会計監査について

当法人は公認会計士による独立監査人の会計監査を受けています。



海外総務部長
南 優菜

私の考えるアクセプトだからこそできることは、紛争解決に向けて「できること」ではなく「やるべきこと」をやるという徹底した姿勢に基づいて、前線での活動から国際規範の制定まで、不可能だと思われてきた領域でも道を切り拓いていくことです。難しいとされる国際規範の制定も不可能だと思うことなく、その実現に向けた道筋だけを見据えながら、一歩ずつ着実に歩みを進められていると感じています。



コロンビア事業部
川上 保

コロンビアのカケタ県で、元戦闘員や地域コミュニティの方々の和解や共生の実現に向けて、カカオ栽培などの実践的な自立研修を共に行っています。ただ与えるのではなく同じ目線に立ち、現地のトレーナーと共に計画を立てて進める中で、彼らの中にも確かな責任感が芽生え始めました。単なる支援にとどまらず最前線に立ち続け、人々と共に平和を創り出していく伴走こそが、私たちアクセプトだからできることだと思います。



海外事業局
北川 野々子

インドネシアやパレスチナでの事業を担当しています。アクセプトでは、あらゆる場面において当事者の声を拘り上げ、根本的な課題の解決に向けて動くことができるのが強みだと感じています。現在も、ガザにいる方々の切実な声を声だけに終わらせず、彼らのためにやるべきことを粛々と進めています。たくさんの障壁はあっても、必要なことだからやる。アクセプトはその姿勢が本当に一貫していますし、私も常に胸に置いています。



ケニア事業部長
ピリ カニャーキーソ荘平

私が思うアクセプトだからこそできることは、社会が「変わらない」と決めつけた人たちを信じ続けることです。ケニアで受刑者や政府機関、宗教関係者と向き合う中で感じるのは、人は支援の対象ではなく変化の主体だということです。アクセプトは正解を押し付けるのではなく、異なる立場の人々をつなぎ、それぞれが平和の担い手となるための土台をつくることができる数少ない組織だと思います。



インドネシア事業部長
向出 洋祐

インドネシアでは、現地NGOでさえも容易にはアクセスできない最高レベルのセキュリティ体制下にある刑務所や、支援の届きにくい離島でも取り組みを行っています。ニーズは高いものの、様々な理由で取り残されてきた人々にもリーチできることは、アクセプトの大きな強みです。日本人職員が現地に何度も赴いて彼らと直接対話をすることが、受益者自身や現地ステークホルダーとの信頼構築につながっています。



在日外国人支援事業部
小堀 郁江

ソマリアでの活動をテレビで見て感動し、若いメンバーのお手伝いができればと思い2021年に参加しました。古希を過ぎ九州に住んでいますが、リモートや上京の機会を活用し、日本で初めて就労する外国人の方への就職支援を行っています。安全な生活を求めて日本に来られたお一人ひとりの希望や可能性の実現に向けて、年齢や居住地を超えた仲間と共に活動できることが、アクセプトならではの価値だと感じています。



第3コミュニケーション部
香野 愛結

佐賀県で多文化共生を推進するイベントの企画・運営を行っています。活動を通して、国籍や年齢の違う人たちが自然に会話を楽しむ姿を見てきました。普段は接点のない人同士が交流する中でお互いの背景や地域で感じていることを知り、新しい気づきが生まれる場面も多くありました。国内外で対立や分断が目につきやすいからこそ、人と人が直接関わり相手への理解を深めるきっかけをつくることが、アクセプトだからこそできることだと思います。



第2コミュニケーション部
畑 俊彰

本業では大手企業の経営リーダー育成や組織変革の支援をする傍ら、アクセプトではアンバサダーの方々への就任キット送付や登録対応を行っています。事務所に行くたびに、少数精鋭かつ多様な人が知恵を持ち寄り全身全霊で働く姿に圧倒されます。本業では決して関わることのない人たちと、民間企業だけでは向き合えない課題に挑む中で学びと刺激が得られるのは、アクセプトならではだと感じます。

## Member's Interview

# 私の思うアクセプトだからこそできること

当団体では毎年60〜70名ほど日本人メンバーと20名以上のそれぞれが活動する中で感じるアクセプトだからこそできることの有給・無給の現地スタッフが活動しています。を聞きました（一部抜粋）。





ソマリア事業部
アブディラフマン

投降兵リハビリ施設の管理者として日々若者たちと向き合っています。不安と恐怖に満ちた彼らの表情は、ここに来ることで次第に安堵へと変わっていきます。そして教育や職業訓練などのプログラムを経て、卒業時には社会に貢献しようとする希望に満ちた一人の市民として巣立っていくのです。「アクセプトは一人の人間として私たちを迎えてくれた」と彼らは言います。これこそが、アクセプトが持つ最大の価値なのです。



パレスチナ事業部
ネビーン

現地の人々を単なる支援の受け手ではなく対等なパートナーとして尊重することは、アクセプトだからこその強みです。例えば皆様のご支援をもとにガザで実施している緊急人道支援では、現地の若者が人々を支援する立場としても加わり、その価値を発揮してくれています。私自身もこの取り組みを主導する役割をもらったことで、これまで働いた組織以上に大きな責任感とやりがいを感じています。



イエメン事業部
ヤサール

私は他の国際機関やNGOでも仕事をしたことがありますが、それらは莫大な予算がありながらも目に見える成果を上げられませんでした。一方、アクセプトは限られた予算と少数のスタッフで、他のどの団体もアクセスできなかった人々に直接的で持続的な支援を届けています。現地への理解と敬意、誠実さと柔軟性、そして使命への信念によって成果に繋げられるのは、アクセプトならではの強みです。



ケニア事業部
プリム

アクセプトの「まず人を見る」姿勢は他ではなかなかできないことだと思います。例えば受刑者のことを問題やリスクと捉えるのは簡単ですが、その背景を理解しようと努め、対話と信頼関係の構築を通じて実際の変化を生み出しています。また、他者がためらうような相手や領域に向き合っていること自体、私にとっても貴重な経験ですし、何よりも誇りに感じていることです。



コロンビア事業部
セバスティアン

私は心理の専門家としてアクセプトで働いています。コロンビアではしばしば、元戦闘員だけでなく彼ら彼女らを含む地域社会全体を紛争の被害者だと捉えます。だからこそ、元戦闘員の再出発を支えながらも、その変化を周辺の地域社会へと広げ、失われた地域間の信頼やつながりを取り戻していく活動はとても意義があるものです。そのような平和の循環を創ることができるのは、アクセプトだからこそできることです。



インドネシア事業部
ミスリア

アクセプトでの経験は私にとって自国を見直す機会でもありました。刑務所や社会の片隅で、偏見や孤立によって前に進めない人々が数多くいること、そして彼らは苦悩しながらも自らの未来を模索していることを知ったからです。そのような多くの人が見過ごしてきた現実に対して、共感と忍耐、そして勇気を持って向き合うこと。これこそが、アクセプトだからこそできることだと思います。

## 組織図

- 総会
  - 理事会
    - 海外事業局
      - 海外総務部
      - ソマリア事業部
      - イエメン事業部
      - ケニア事業部
      - インドネシア事業部
      - コロンビア事業部
      - パレスチナ事業部
    - 国内事業局
      - 更生支援事業部
      - 在日外国人支援事業部
    - コミュニケーション局
      - 第1コミュニケーション部
      - 第2コミュニケーション部
      - 第3コミュニケーション部
      - クリエイティブ室
    - 事務局
      - 人事部
      - 経理部
      - 総務部

スタッフ数：国内69名（有給12名）、海外26名（有給24名）
（2026年6月30日時点）



ACCEPT
INTERNATIONAL


## 認定NPO法人 アクセプト・インターナショナル

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-5-7 YOUビル 6A

TEL：03-4500-8161

E-MAIL：info@accept-int.org

アクセプト・インターナショナル 検索

https://accept-int.org

@accept.international.org

@accept_int

@accept_international


定期ニュースレター「アクセプト通信」ご登録はこちらから